

2016年9月4日 聖霊降臨後第16主日

福音書 ルカによる福音書 14:25-33

第1の日課 申命記 29:1-8

第2の日課 フィレモンへの手紙 1-25

自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。

ルカ 14:27

★ねらい

「自分や身内のことだけ」を考えるあり方から、「みんなのこと」を考えるあり方への(考え方の)転換を示す。

★説教作成のヒント

親子の信頼関係が最も重要な時期にある児童にとって、この聖書の箇所は難解だ。「自分の家族や自分のいのちを憎め」という言葉をどう理解させるかが鍵になる。イエス様の語る「神の国」の実現と関連して説明を試みた。「自分の十字架を背負う」ということでも展開できるかもしれないが、児童の経験値に応じて、理解度が異なることを考慮すべきである。

★豆知識

イエス様が、およそ三十歳のときに、洗礼者ヨハネによる洗礼を受けてから始められた生活は、イエス様の家族にとっては、なかなか理解し難いものであったようである。

マルコ福音書には、イエス様がおかしなことをしたり、話していると聞いて、身内がイエス様を取り押さえに来たこと、また母親のマリヤとイエス様の兄弟たちが連れだって、イエス様に会おうとして訪ねて来たことがあると記されている。たぶん、日課の言葉の背景には、イエス様の行動に対する家族の無理解があったのかもしれない。

★説教

みんなにとって、大切なものって何だろう。おとうさん、おかあさん、大切だね。兄弟、家族、友だち、やっぱり大切だね。そして何より、自分自身。自分のことを大切に思わない人はいないんじゃないかな？ たとえ、自分なんかどうでもいいや、って考えている人がいたとしても、その人の本当の気持ちは、誰かに「あなたは大切だよ」って言ってほしいのではないのでしょうか。

今日のイエス様のお話し。イエス様があちこちの町で、「神様の国」について話をしたり、不思議な奇跡で病気の人を癒したりするので、大勢の人が「イエス様は、なんてすごい人なんだろう」と言って、イエス様の後をついていきました。中には、イエス様のお弟子になりたいという人たちもいました。ところがイエス様は、お弟子になりたいという人たちに、こんなことを言われたのです。「もしだれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更には自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの

弟子ではありえない」「自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない」。なんでイエス様はこんなことを言われたのでしょうか。旧約聖書の中には、「あなたの父母を敬え」と書いてあります。また、イエス様も、ちがうところでは「自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい」と言っておられる。つまり、自分を大切にするように、他の人のことも大切にしなさいということです。イエス様自身が、自分を大切にしなさいと言っておられるのに、どうしてこの時は、「自分の家族や、自分の命を憎みなさい」なんてことを言われたのでしょうか。

イエス様は、私に従ってきたいと思うのなら、家族や自分のことばかり大切に考えていてはいけない、ということをお伝えしたかったんじゃないかな。イエス様のお弟子になるということは、イエス様がめざしている「神様の国」を、イエス様と一緒に、この地上に拓げていくこと。イエス様が教えてくださった「神様の国」とは、悲しんでいる人泣いている人が誰もいなくて、みんなが仲良く幸せに暮らせる世界のことです。そのためには、自分や自分の家族のことばかりを大切に考えていてはいけません。どうしたら、みんなが幸せになれるかということを第一に考えなさい、ということです。イエス様は、けっして、自分や自分の家族をきらいになれ、大切にしないでいい、と言っているわけじゃありません。

誰だって、自分にとって大切なものは守りたくなる。昔、日本は、自分の家族や自分の国のことばかり大切に考えて、それを守るために、戦争をしました。それで結局は、たくさんの方が命をなくし、大切な家族も、日本という国も、そしてたくさんの方々の他の国の人々も、ひどく傷つけてしまいました。それでは、いけないよって、イエス様は教えてくれているのです。みんなが仲良く幸せに暮らせる世界。これを「平和」といいます。この平和な世界を作り出すためには、よく考え、ときには、我慢をしたり、自分がいやだなと思うことも引き受けなくてはいけません。でも、そうすることによって、自分ばかりでなく、みんなが幸せに暮らせる世界がおとずれるなら、どんなに神様は喜んでくださるでしょう。みんなも、イエス様のお弟子になって、イエス様と一緒に、「神様の国」、平和な世界を拓げていく、すばらしい仕事をする人になってください。

分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□31番 「キリストイエスは」

□119番（改訂版） 「主に従うことは」

やってみよう

☆大切なものを捨てて…

- 1、自分の大切なものを紙に書いて、紙ヒコーキを織る。
- 2、紙ヒコーキが入るくらいの空箱や空筒を的にして、ヒコーキを飛ばして入れる。意外と難しいです。空箱にイエス様の描いて貼ると良いですね。
- 3、紙ヒコーキは、自分の大切なもの。空箱の的はイエス様。大切なものを投げ捨てて、イエス様のあたたかいふところに飛び込みましょう。
- 4、みごと入ったら、先生と「おめでとう」言ってムギューっとハグしましょう。

話してみよう

- ・大切なもの（宝物）は何ですか？
- ・では、その大切なものはもともと誰のものか考えてみましょう。
- ・大切な何かを捨てるとはどういうことでしょうか？捨てる場所は、イエス様の十字架の下（足元）だと考えてみてください。
- ・すべてを捨てて、イエス様の胸に飛び込んでみたら、どんな気持ちかな？

2016年9月11日 聖霊降臨後第17主日

福音書 ルカ 15：1-10

第一の日課 出エジプト 32：7-14

第二の日課 I テモテ 1：12-17

悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。

ルカ 15：7

★ねらい

社会・共同体から迷い出た（疎外された）者の痛みを共感し、「どの人も、かけがえのない存在、かけがえのない一人であること」が伝わることを考えた。

★説教作成のヒント

例え話の物語性を大切に、平易に話すようにした。聞き手が迷子になる体験を導入にして、迷い出た羊（存在）に、より共感できるよう試みた。さらに「良い羊飼い」であるイエス様の愛、神様の愛についての理解へと繋げる。聞き手である「あなた」が大切な存在であることを、いっそう強調してもよい。

★豆知識

本来、私たち一人一人の尊厳や価値というものは比較できるものではないはずである。「九十九匹の羊と一匹の羊」という数字上の比較は神様の前には意味をなさない。それはあくまで暫定的なもの、一時的な量りにすぎず、本質を量るものではない。

★説教

迷子になったことのあるお友達はいませんか？ お家の人と一緒に、お買い物や遊園地やお祭りのような、人がいっぱいいるところに出かけて、いつのまにかお家の人とはぐれてしまって、「おかあさ～ん、おとうさ～ん、おばあちゃ～ん、どこにいるの？」と、泣きべそかきながらひっしに探したことはないかな？ あるいは、いつも遊んでいる場所よりも

遠くまで遊びに行き、帰る道がわからなくなってしまう、歩いて歩いて家にとどりつけなくて、「どうしよう」って、不安な気持ちでいっぱいになったことはないかな？

ある時、イエス様はこんなお話しをされました。迷子になった一匹の羊と、その羊を探しに出かけ、見つけ出して家に連れ帰る羊飼いの話しです。羊も迷子になるのでしょうか？羊は、おとなしくて臆病な動物です。どんなときも、仲間の羊たちと一緒に行動します。一匹の羊がある方向に動き出すと、他の羊たちも皆それについていく。羊飼いは、そんな羊たちを上手に導いて、おいしい草のたっぷりある場所に連れて行って食べさせ、安全に眠れるところに連れて帰ります。羊たちは、夜も身体を寄せ合って眠ります。羊は他の羊たちと一緒にいることで、安心するのです。ところが、そんな羊も仲間からはぐれて迷子になってしまうことがあります。おいしい草を食べることに夢中になるうちに、他の羊たちが羊飼いに導かれて帰るのに気づかなかったり、背の高い草の繁みの中に入り込んで、そこから出て来られなくなってしまうたり。まだ小さい子羊は、好奇心がいっぱいで、お母さん羊から離れて遊びにいき、自分がどこにいるのか分からなくなってしまふことがよくあるそうです。ひとりぼっちになってしまった羊は、自分だけでは仲間のところに帰れません。いつもは羊飼いや他の羊にくっついて歩いているので、道を覚えていないのです。その場でうろうろしたり、まったく違った方に向かって歩いていってしまったり。そんな迷子の羊を危険がおそいます。羊は目があまりよく見えないので、地面のくぼみや大きな石につまずいて怪我をしたり、あやまって崖から落ちてしまったり。さらに一匹だけになってしまった羊を、お腹をすかせた恐ろしい狼がねらいます。

イエス様は言われます。「百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか」。羊飼いは、百匹も羊を飼っているのだから、そのうちの一匹がいなくなったって、まあしょうがないかとは思いません。どんな一匹であっても、羊飼いににとっては大切な、かけがえのない一匹なのです。よい羊飼いは、羊の気持ちをよく知っています。迷子になった羊が今、どれほど不安で、おびえているのか、痛いほどよくわかります。だから他の九十九匹を置いてでも、その一匹を助けにいくのです。ちょうど、こどもが迷子になったとき、お家の人が心配でたまらない気持ちで、その子を探し回るように。そうして、迷子の羊が無事に見つかったら、大喜びで、その羊を肩に担いで、残してきた九十九匹のところへ帰ります。

イエス様は、ご自分のことを「わたしはよい羊飼いです」と言われます。イエス様にとっての羊とは、わたしたち人間みんなのことです。もしも誰かがひとりぼっちで、不安でさびしく、恐ろしく感じているのなら、イエス様は必ず探し出し、助けてくださいます。そして見つかったことをとても喜んで、大きな愛でしっかりと抱きしめてくださいます。

分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□108番 「くじゅうくひきを」

□55番（改訂版） 「小さい羊が」

やってみよう

☆迷子の羊を見つけよう

- 1) 羊のぬいぐるみを用意し、部屋のどこかに隠す。みんなで探す。
- 2) 机の上で。模造紙など、机の大きさに合う紙に山や森の絵を描き、(アドベントカレンダーのような) 閉じてある窓を作る。その中の一つに紙に描いた羊を隠し、皆で探す。

話してみよう

イエス様のおっしゃる「まいごのひつじ」とはだれのことでしょうか。

2016年9月18日 聖霊降臨後第18主日

福音書 ルカ 16:1-13

第一の日課 コヘレト 8:10-17

第二の日課 I テモテ 2:1-7

あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。

ルカ 16:13

★ねらい

この世の富・お金はすべて神様からの預かりものであり、みんなが互いに助け合うことに生かされることが、神様の喜びであることを示す。

★説教作成のヒント

この箇所に出てくる例え話は、経済活動に対する一定の知識がなければ理解が難しく、児童には不向きかもしれない。できるだけ平易に語ることで、少しでも身近に感じられるよう努めた。「無駄遣い」という不正が露呈した管理人が、自分にも他者にも「役に立つ」方法を真剣に見出そうとしたところに、一つの転換点がある。イエス様の言われる「不正な富」とは、この世の富・財貨全般を表している言葉であって、それらに対して、神の御心に忠実に対処できる者だけが、さらに大きな天の富をも任されることができるのである。

★豆知識

この金持ちが、商売をしていたか地主であったかはわからない。イエス様の時代、すでに大規模な大土地所有の地主は出現していた。とすると、借りた油や小麦は、小作人への貸し付けだったかもしれない。ともかく、イエス様の富に対する感覚、つまり「この世の富が蓄積されること」そのものが神様から見て「不正」であるという感覚が、背景にはあると考えられる。

★説教

ある時、イエス様はお弟子さんたちに、こんなお話をしました。

あるところにお金持ちがいました。たくさんのお金や財産を持っていました。どんなにお金を持っていても、ただ自分のために何かを買ったり、遊んだりするのに使ってしまう

ば、減っていくばかりで最後にはなくなってしまうことを、そのお金持ちはよく知っていました。それでお金持ちは、人々の暮らしには欠かせない油や小麦を売る商売をして、自分のお金をもっと増やしました。お金持ちは、一人の管理人を雇って働かせていました。管理人の仕事は、主人のお金や財産を預かって、それが減らないよう絶えず気をつけ、また油や小麦を売って儲けたお金を計算して、主人に報告することでした。そんな大事な仕事をまかせているのですから、お金持ちは、その管理人のことをとても信用していました。

ところが、ある人がお金持ちに「あの管理人は、うその報告をして、あなたのお金を勝手に無駄遣いしていますよ」と言いつけたのです。お金持ちはびっくりして、管理人を呼びつけました。「ちゃんと本当のことを報告しなさい。もしおまえがお金をごまかしているのなら、もうこれ以上、おまえに仕事をさせるわけにはいかない」。そう言われた管理人は、自分が今まで主人をだましてきたことがばれてしまって、大慌てでした。悪いことをすれば、必ずばれるということが、わからなかったのでしょうか。管理人は考えました。「もし仕事をやめさせられたら、これからどうやって生きてゆけばいいのだろうか。住んでいるところも追い出されてしまうだろう。仕事がなければ、食べていくこともできない。身体が弱くて、力仕事もできない。道ばたに座って人からお金を恵んでもらうのは、はずかしい。ああ、どうしよう」。管理人は、不安な気持ちでいっぱいになりました。

その時、いい考えが浮かびました。管理人は、お金持ちの主人から油や小麦を買っているお客さんで、代金が支払えなくて困っている人たちがいるのを知っていました。支払っていないお金は、いつかは利子をつけて返さなくてはなりません。管理人は、主人に内緒で、その人たちの借金を少なくしてあげることになりました。もしもそのことがばれたら、主人はもっと怒るかもしれません。そんなことをすれば、主人にとっては大損になるからです。けれども、そうして困っている人たちを助けてあげれば、自分が主人から追い出されて仕事がなくなった時、その人たちが助けてくれるかもしれないと考えたのです。

管理人のしたことは、すぐにお金持ちの主人にばれてしまいました。主人はカンカンになって怒るか、と思ったら、なんと管理人のことを、「おまえは利口だ、たいしたものだ」とご機嫌で褒めたのです。いったいどうしてでしょう？ 管理人が主人をだまそうとしたことは、よくないことです。けれども、困っている人たちを助けることで、自分も助かろうとした。そのやり方が、とてもすばらしいというのです。

イエス様は、このお話をされてから、お弟子さんたちに教えられました。あなたたちの本当の主人は、神様です。私たちの持っているお金は、すべて神様から預かっているもの。自分の楽しみに使ったり、ただ貯めておいても、何の役にもたちません。貧しい人、困っている人を助けるためにお金を使って、その人たちの友達になりなさい。みんなが互いに助け合うこと。それが、神様が一番喜ばれることなのです。

分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□49番 「しゅイエスのひつじ」

□47番（改訂版） 「小さい子どもの」

やってみよう

☆クレヨンスクラッチ

画用紙に色々な色のクレヨンを使い少しずつの範囲を塗りこめていく。

その上を黒のクレヨンで塗りつぶす。

最後にくぎや鉛筆やお箸など先がとがっているもので、黒い部分を削り絵を描いていく。

→できれば見本に荒い作業で完成したものを作っておき、比べてみてもおもしろい。

→色も黒も、きちんと塗りつぶさないときれいな作品にならない。

話してみよう

※みんなが大切にしているものは何ですか。

※イエス様がおっしゃる「本当に価値のあるもの」とは何でしょうか。

2016年9月25日 聖霊降臨後第19主日

福音書 ルカ 16 : 19-31

第一の日課 アモス 6:1-7

第二の日課 I テモテ 6:2c-19

やがて、この貧しい人は死んで、天使たちによって宴席にいるアブラハムのすぐそばに連れて行かれた。

ルカ 16 : 22

★ねらい

この世の貧富の差（構造的な経済格差）が神の御心に背くものであり、神様は常に貧しい者、困窮した者を心にかけておられることを示す。貧困状態にある人々への共感を育む。

★説教作成のヒント

イエスの譬え話が、現代にも起こっている事柄と重なることを、児童のわかる範囲で伝えるよう努めた。その上で、譬え話の物語性を大切に、少しでもラザロの境遇に想いを寄せられるように心がけた。神の罰としての地獄について、幼い聞き手に恐怖感を与えずに配慮が必要である。「モーセと預言者」の教えについては、省略している。現代の子どもの貧困、ホームレス問題、世界の飢餓の問題とも関連して展開できるかもしれない。

★豆知識

ホームレスであるラザロには名前が与えられており、一方の金持ちは匿名のままであることを注目すべきである。ホームレス状態にある人々の、人としての尊厳、人権が、まず神様によって尊重されていることを表しているといえる。

★説教

わたしたちの住む世界には、お城のような家に住んでいて、自分の専用飛行機を持っているような、びっくりするほどのお金持ちがいます。その一方で、一日たった一回のごはんも食べられないような、まずしい人たちがたくさんいます。どうしてでしょう？お金持

ちはたくさん働いたから？まずしい人は、なまけて仕事をしなかったから？それとも神様が、誰がお金持ちになって、誰が貧乏になるかを決められたから？いいえ、どれも違います。まずしい人たちは、働きたくても仕事が無かったり、一生懸命仕事をして、ほんの少しのお金しかもらえなかったりするのです。お金持ちの人たちは、自分の持っているたくさんのお金を使って、まずしい人たちを助けてあげれば、世界中のみんなが幸せになれるのに、それをしようとしません。そのことを、神様はとても悲しんでおられます。

日本にも、ホームレスと呼ばれる人たちがいます。まずしくて、働きたくても仕事が無くて、とうとう住む家もなくなって、道端や公園で寝ている人たちです。ホームレスの人の多くは、家族もなくひとりぼっちです。ごはんをまったく食べられない日もあります。長い間お風呂にも入っていないので、汗と埃の臭いがします。病気になっても病院に行くお金もありません。それで身体を悪くしていることが多いのです。

今日のイエス様のお話の中にも、ホームレスの人が登場します。名前をラザロさんと言います。ホームレスの人たちにも、ちゃんと一人一人名前があります。ラザロさんは、いつも町一番のお金持ちの家の門の前に寝ていました。長い間何も食べていないので、起き上がる元気もないのです。一方そのお金持ちの家の主人は、王様のような豪華な着物を着て、毎日ごちそうを食べて贅沢に暮らしていました。ラザロさんはいつも、そのごちそうの食べ残しを食べさせてもらいたいなあ、と願っていましたが、お金持ちの家の主人は何ひとつくれず、ただラザロさんの前を、汚いものを見るようにイヤな顔をして、無視して通りすぎるだけでした。ラザロさんは身体を悪くしていて、身体中におできができていました。友達はのら犬だけ。ラザロさんのおできを舐めて、慰めてくれるのでした。

ある朝とうとうラザロさんは、死んでしまいました。その時、天使たちが迎えに来て、ラザロさんを天国へと連れて行ったのです。この世でつらいことをたくさん我慢して生きた人は、死んだら、誰よりも真っ先に天国に行くことができるのです。そこにはラザロさんたちのご先祖であるアブラハムがいて、ラザロさんをやさしく懐に抱いてくれました。

さて、しばらくしてお金持ちの家の主人も死んでしまいました。このお金持ちが死んでから行ったところは、天国ではなく、恐ろしい炎の燃える地獄でした。お金持ちが、地獄の炎の中で苦しみながら上を見上げると、そこには天国でアブラハムと共にいる、幸せそうなラザロさんが見えました。お金持ちは、アブラハムに向かって「助けてください。せめてラザロを私のところに來させて、ほんの少しの水をください」と頼みました。けれども、アブラハムは悲しそうに、こう言いました。「おまえは、生きている間によいものをひとりじめして、苦しんでいるラザロに何もわけてやらなかった。だから今、おまえは苦しみ、ラザロは天国にいる。おまえを助けることはどうにもできないのだ」。

神様は、わたしたちみんなを天国に招きたいと願っておられます。そのためには生きている間に、神様から預かったお金や食べ物なんかを貧しい人とわけあって、助け合って生きていくことが求められているのです。

分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□49番 「しゅイエスのひつじ」

□ 47番 (改訂版) 「小さい子どもの」

やってみよう

☆間違い探し

下の絵の①と②の違っている箇所を探しましょう。5つあります。



話してみよう

イエス様は私たちが天国に招いてくださっていますが、このお金持ちと私たちの違いはなんでしょうか。